

譲渡でつながろう！

命のバトン



全国の自治体や動物保護団体では、
迷子や飼育放棄などで飼い主を失ったペットを
新しい飼い主に譲渡しています。
ペットを迎える選択肢として
考えてみてはいかがでしょうか？

1 譲渡について

新たにペットを迎えるには、ペットショップやブリーダーから購入する以外に、自治体の動物愛護センターや民間の動物保護団体から引き取る【譲渡(じょうと)】という選択肢があります。

譲渡される犬や猫は、飼い主不明で保護されたり、飼育放棄等により引き取られたり、災害などで飼い主が飼えなくなった犬や猫ですが、子犬や子猫から飼わないとなつかないということはありません。成犬や成猫の場合は体格や性格がある程度分かっている利点もあります。譲渡の良い点や注意点をよく考え、飼育環境や家族構成などを動物の気質や性質と照らし合わせて、自分に合った1頭を見つけてください。



譲渡の良い点

- 新たな飼い主として、動物の命を救い、安心して生活できる環境を提供できます。
- 譲渡希望者への聞き取りが慎重に行われることで、その生活環境に見合った年齢や性格の動物を引き取ることができます。
- トライアル期間(試しに飼ってみる期間)を設けている場合もあり、相性や性格の観察ができます。
- 譲渡前の講習会や譲渡後のしつけ方教室等で、飼い方の相談や情報提供を受けられる場合があります。
- 地域(地元)の自治体や動物保護団体の活動に協力できます。

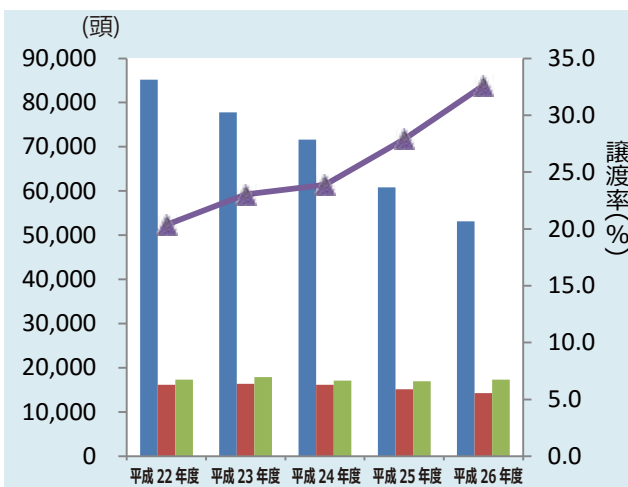
譲渡の注意点

- 動物の年齢や病歴、これまでの飼育環境などの細かい情報がない場合があります。
- 保護されるに至った背景によっては、飼育に特別な理解と技術が必要な場合もあります。
- 種類や年齢、大きさなど、希望する動物に出会えない場合や、受ける側の条件などにより譲渡を受けられない場合もあります。
- それまでの飼育費用やワクチン代などがかかる場合もあります。必ず事前に確認しておきましょう。

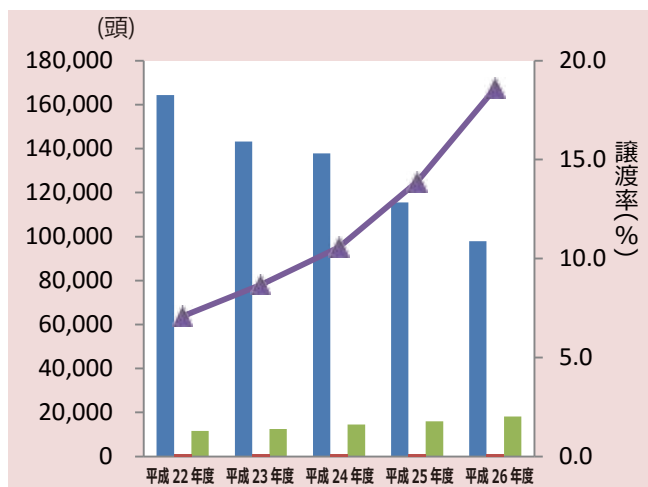
譲渡数の推移

全国の自治体に引き取られた犬や猫の数は年々減少し、平成26年度で、犬は53,173頭、猫は97,922頭で、そのうち返還・譲渡された犬は31,625頭、猫は18,592頭でした。譲渡率は年々増加していますが、犬で32.6%、猫で18.6%にとどまっております、今も多くの犬や猫が新しい飼い主を待っています。

<犬の引取り数と返還・譲渡・譲渡率の推移>



<猫の引取り数と返還・譲渡・譲渡率の推移>

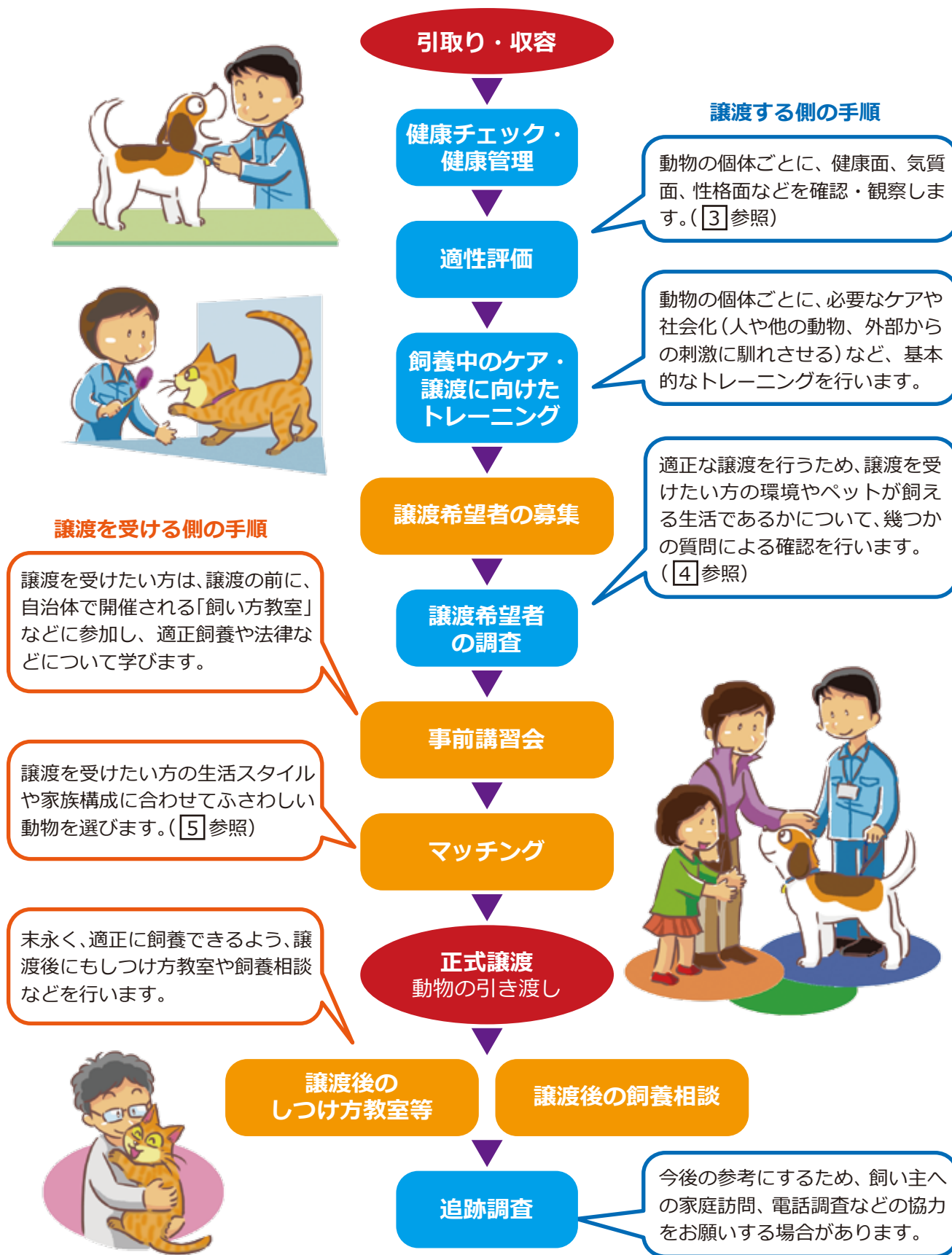


■引取り数 ■返還数(飼い主の元へ戻った頭数) ■譲渡数 ▲譲渡率(各年度の引取り頭数に対する譲渡頭数の割合)

※返還と譲渡を合わせると、引取り数に対して犬が約60%、猫が約20%です。

2 譲渡の流れ

自治体や動物保護団体により、譲渡対象となった動物の収容過程や譲渡の方法は異なります。事前によく確認して、納得したうえで譲渡を受けましょう。※以下の流れは自治体の一例です。



1 譲渡について

2 譲渡の流れ

3 健康チェックと適性評価

4 譲渡を受ける条件

5 マッチングについて

3 健康チェックと適性評価

自治体によって内容は異なりますが、動物が新しい飼い主に譲渡できる状態かどうか、健康状態・気質・性質・人に対する友好度など、さまざまなチェックや観察を行います。譲渡の適性を見極めることは、新しい飼い主にとって、その後の適正飼養や終生飼養を可能にし、地域社会でのトラブルや事故を防ぐことにもつながります。



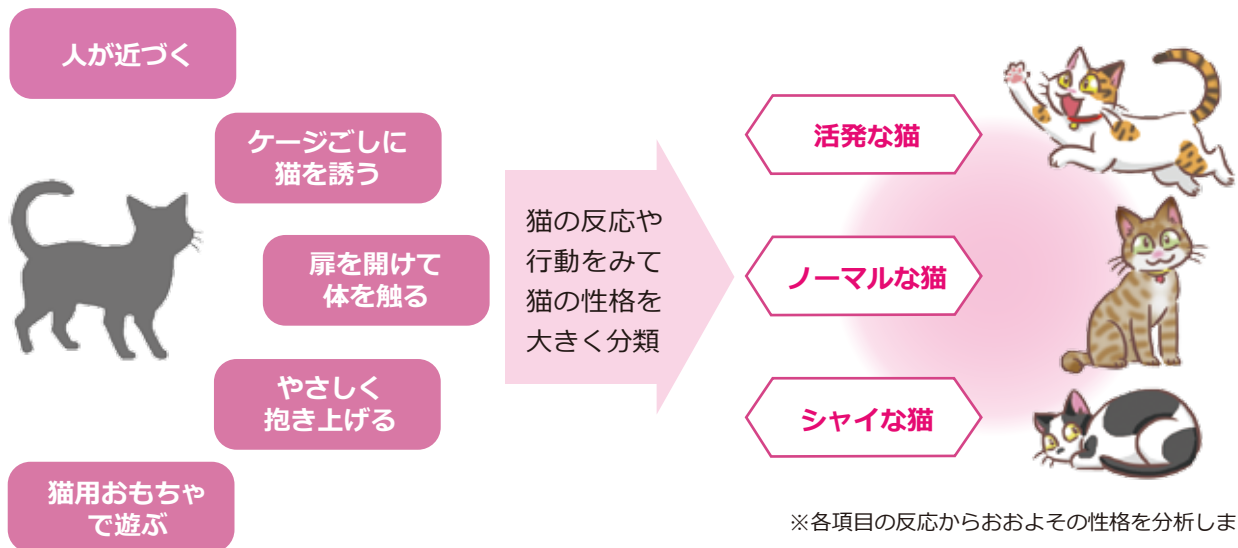
健康チェック

体格や栄養状態、伝染性の病気や寄生虫の有無など、動物の健康状態をチェックします。必要に応じて、治療や寄生虫の駆虫、ワクチン接種を行うほか、感染症にかからないよう健康管理を行います。

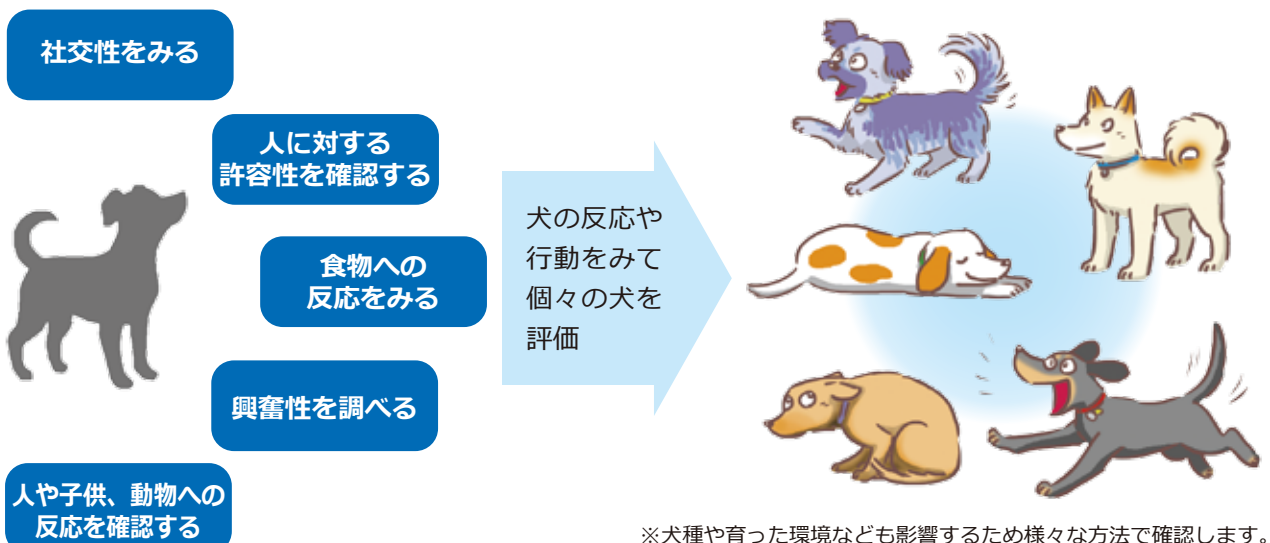
適性評価（気質、性格等）

動物の普段の行動を観察したり、日常生活の中で起こりうる様々なシーンを想定したテストを行い、それぞれの動物の気質や性格、反応等をチェックし、総合的に評価します。

●猫の行動チェックの一例・・・主に性格について観察します



●犬の行動チェックの一例・・・主に行動を観察します



4 譲渡を受ける条件

自治体や動物保護団体によって内容が異なりますが、譲渡を希望する人が動物を適正に飼養できる環境や生活であるかどうか、事前に質問をして確認します。条件を満たしていない場合には譲渡を断られることもあります。これは譲渡された動物がまた飼育放棄されたり、不幸にならないようにするためです。



譲渡の条件をチェックしてみましょう！ <自治体の主な譲渡条件の例>

- ペットが飼える住宅環境です。
- (引っ越しの可能性がある場合) ペット飼育可の住居を探せます。
- 適正に飼養できるスペースが確保されています。
- 一定の収入やペットを飼うための費用があります。
- 動物を飼うことを家族全員が賛成しています。
- 動物に対するアレルギー等を持つ家族はいません。
- 昼間、家族全員が留守になる時間は長くありません。何かあったときでも対応できます。
- (単身者や高齢者だけのご家族の場合) 世話を頼める後見人をたてることができます。
- 愛情と責任を持ち、病気やけがをしても治療し、終生飼養できます。
- 不必要な繁殖を防ぐため、不妊または去勢手術を受けさせます。
- 迷子にならないよう、マイクロチップや名札など所有者明示をして飼うことができます。
- 犬は登録し毎年の狂犬病予防注射を実施、鑑札と注射済票を装着させます。
- 猫は完全室内飼いができます。
- しつけをし、他人に迷惑をかけないように飼えます。
- 自治体を実施する講習会等(事前・事後)を受講できます。

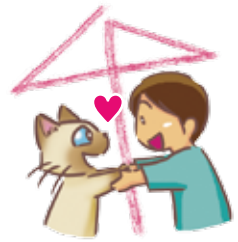


譲渡と不妊去勢手術の大切な関係



新しい飼い主に引き取られても、譲渡先でのむやみな繁殖により、子犬や子猫が生まれて増えてしまい、また飼育放棄されては不幸の連鎖は止まりません。そのため、不妊去勢手術をすることを譲渡の条件としたり、譲渡前に手術を施す自治体も増えてきています。特に猫に関しては、犬猫の殺処分数全体の約5割が子猫であることを考えると、不妊去勢手術の徹底は急務です。

譲渡を受けてから、動物の気質・性質などが新たな飼い主の生活スタイルに合わず、「こんなはずじゃなかった」とならないために重要なのが、マッチングです。成犬、成猫はもちろん、子犬、子猫にもそれぞれ個性があります。見た目や種類だけで判断せず、飼育環境やライフスタイル、家族構成などを冷静に考え、個々の動物の気質・性質とよく照らし合わせたうえで、自分に合った動物を選びましょう。



猫のマッチングのアドバイス・・・性質別のマッチングをしましょう

活発な猫の場合

家族が多く、猫に時間を割き、かまってあげられる家庭向きです。高齢者だけの静かな家庭、遊びに時間を多くとれない家庭では、エネルギーの発散不足で、甘噛みや遊びでのひっかきがエスカレートする可能性も高くなります。



ノーマルな猫の場合

比較的どんな家庭でも大丈夫です。ただし、猫は新しい環境になれるのが苦手な動物なので、新しい家ではなかなか慣れてくれない場合もあります。無理をせずにゆっくりと様子を見守りましょう。



シャイな猫の場合

子供のいない、静かな大人だけの家庭の方が向いています。ゆっくりと気長に根気強く、猫がなれるまで穏やかに接してくれる人や、猫と暮らした経験が豊富だったり、同じようなタイプの猫と暮らした経験がある人がいいでしょう。



■高齢者の家庭には……

犬に比べて猫は高齢者でも比較的飼いやすいペットです。ただし、猫の寿命を考え、病気や入院などで世話ができなくなった時に備えて、後見人的存在(家族や知り合い)をあらかじめ決めておくことが必要です。また、子猫よりは、人懐っこく安定した性質の成猫の方が飼いやすいでしょう。

■子猫か成猫か迷っている家庭には……

子猫は非常に活発で遊び好きのため、遊び欲求を満たすことができないと問題行動につながることもあります。成猫は子猫ほど活発ではないことが多いので扱いやすく、性質が安定しているという良い点があります。夫婦共働きなど留守番時間が長い家庭では、月齢が同じくらいのきょうだい猫や相性の良い猫2匹を一緒に迎えると、猫同士で遊んでエネルギーを発散し、退屈せずに暮らせるでしょう。ただし、雌雄の組み合わせの時は、不妊去勢手術を済ませておくことも重要です。

■すでに先住猫のいる家庭には……

先住猫が猫に対してシャイで、子猫の時に他の猫との接触する経験が少なかったようなら、新たな猫を迎えることは見合わせたほうがいいのかもかもしれません。トライアル期間(試しに飼ってみる期間)を設けて、猫同士の関係を見るのも一つの方法です。新たな猫が子猫だと、先住猫が受け入れやすい場合が多いようです。



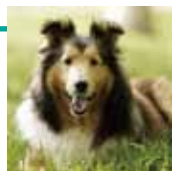
犬のマッチングのアドバイス・・・犬種傾向を知っておきましょう

トイプードル、チワワなど



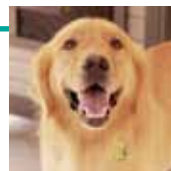
元々、侵入者を吠えて知らせる役目を持っているなど、比較的に吠える傾向にあります。集合住宅などでは、なるべく吠えないよう、しつけをして飼いましょう。

シェルティ、コーギーなど



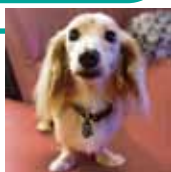
動くものに過剰に反応し、興奮しやすい傾向があります。スポーツやトレーニングなどを一緒に楽しんだり、犬の飼育経験が豊富な人にお勧めです。

ラブラドル、ゴールデンなど



「ものをくわえたい」という欲求が強く、甘噛みやいたずらも相当なものになりがちです。散歩やボール遊びなど、たくさん遊んで発散させてやりましょう。

ダックスフント、ビーグルなど



獲物を追いかける習性から、大きさの割にはタフな場合が多いので、エネルギーの発散が必要です。ものをかじる、におい嗅ぎが過剰になることもあります。

日本犬（柴犬、秋田犬など）



自立心が強く、一人の飼い主になつき、体を触られたり、他犬と協調するのが苦手な傾向にあります。そうした性格を理解し、魅力に感じる人向きです。

いわゆる雑種



見た目も性格も大きさも様々です。外見が似ている犬種で傾向を判断するのではなく、性格や行動など個々の犬の特徴をしっかりと見ることが大切です。

※あくまで犬種の傾向であり、実際にはそれぞれの犬の性格を見ることが重要です。

■小さい子供のいる家庭には……

子供に対して温厚にふるまえる犬がいいでしょう。おとなしい子供がいる場合は落ち着いた犬、やんちゃな子供の場合には元気で活発な犬がお勧めです。譲渡会などで実際に子供に会わせて相性をみましょう。基本的に犬の世話は親が行い、子供も手伝うというスタイルが望ましいでしょう。



■共働きの夫婦、留守の時間が長めの家庭には……

落ち着きのあるタイプ、独立心の強いタイプ、一匹でいることが苦にならない犬がお勧めです。ケージの中や繋がれた場所で落ち着いていられる犬なら留守番が長くても負担は少ないでしょう。子犬は手間と時間がかかるので、ある程度性格の分かった成犬の方がいいでしょう。



■家族全員が大人で、比較的静かに暮らしたい家庭には……

落ち着いて行動できる中高齢の犬、動きが緩慢な犬、大きさでは中型犬以上がいいでしょう。また、高齢者だけの家庭には、穏やかな性格の小型の成犬がお勧めです。ただし、病気や入院などで世話ができなくなった時に備えて、後見人的存在(家族や知り合い)をあらかじめ決めておく必要があります。



マッチングの失敗例！ 適正なマッチングがされない、いろいろな問題が起きてしまいます。

ケース
1

マンションに暮らす家族が吠えやすい小型犬をもらったら……



吠え声の苦情が来てしまい、犬を返したいと相談することになってしまった

ケース
2

小さい子供のいる家庭がシャイな猫をもらったら……



ていねいに扱われず、猫が子供の存在をストレスに感じて元気がなくなった

譲渡後の取り組み

譲渡後も、新しい飼い主の不安をなくすため、また、動物たちの様子を把握し、適正飼養をさらに高めるために、飼い主同士の交流の場を提供したり、イベントを実施しているところもあります。

譲渡者交流の会「わうくらぶ」では、里帰りイベントなどを開催し、親睦を図るだけではなく、しつけ方教室や写真コンクールなどを行っています。



和歌山県動物愛護センター

センターから子犬の譲渡を受けた飼い主が子犬と一緒に参加する「パピースクール」を開催し、しつけ方や飼い方の講習を行っています。



岡崎市動物総合センター

譲渡推進の事例

自治体が行っている譲渡推進のための取り組み事例をご紹介します。

※他にも様々な取り組みが実施されています。お住まいの自治体にお問い合わせください。



獣医師による健康診断



譲渡会の様子



譲渡候補犬のお散歩ボランティア



飼育講習会の様子



子猫の一時預かりボランティア



隣接する自治体との譲渡前講習会の連携
※写真は譲渡犬猫写真展の様子



全国の自治体や動物保護団体のほか、一部のペットショップ等でも譲渡の取り組みが広がっています。譲渡会に出かけたり、ホームページなどで譲渡に関する情報を確認してはいかがでしょうか。



 **環境省**
Ministry of the Environment

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

編集・イラスト：つしまみかこ

平成 28 年 9 月発行



○お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ